オリンピックとパラリンピックはどのように作られたか
―さまざまな人たちの挑戦

西川千春

1960年、東京都生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。アメリカ国際経営大学院（現・アリゾナ州立大サンダーバード国際経営大学院）にて国際経営学修士（MBA）。
1990年、日本精工の駐在員としてロンドンへ。その後、英国に留まり、2005年に海外事業を専門とする経営コンサルタントとして独立。
オリンピックボランティアとして2012年ロンドン夏季大会、2014年ソチ冬季大会、2016年リオ夏季大会に参加。
日本スポーツボランティアネットワークのプロジェクトに特別講師としてかかわるほか、目白大学外国語学部英米語学科講師を務める。
東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会ボランティア検討委員。
日本通訳翻訳学会会員、国際ビジネスコミュニケーション学会会員、日本オリンピック・アカデミー会員。
著書に「東京オリンピックのボランティアになりたい人が読む本」（イカロス出版）がある。

大会の顔、
オリンピック・パラリンピックボランティア――人生最高の2週間

今やオリパラ運営に欠かせないボランティア。誤解されがちなボランティアの意味、やりがい、活動内容、実際の出来事などを過去3大会（ロンドン、ソチ、リオ）での自らの大会ボランティア体験と多くの運営側も含めた関係者からのヒアリングを基に紹介し、国際的な観点から東京大会ひいては日本社会への提言を行う。

佐々木真理

実践女子大学文学部英文学科教授。女性作家を中心にアメリカ文学を研究。

ジェンダーからみる
オリンピック・パラリンピック――女性の身体とスポーツ

アメリカ合衆国を中心に、女性たちがどのようにオリンピックとパラリンピックに関わってきたのかについて、19世紀後半から始まった女性の社会進出と身体教育の流れを踏まえて、女性アスリートの誕生とその受容を考えてみたい。

深瀬有希子

実践女子大学文学部英文学科准教授。アフリカ系アメリカ文学・文化を研究。

「東洋の魔女」言説
――リクリエーション、公共性、オリエンタリズム

日本におけるオリンピックを語る際に無視できない「東洋の魔女」言説。もともとは 19 世紀末に、アメリカ合衆国マサチューセッツ州で生まれたバレーボールは、いかなる文脈の中で日本にかくも浸透したのか。リクリエーションおよびスポーツが持つ公共性について、また、「東洋の魔女」という呼称に見てとれるオリエンタリズム、すなわち人種民族とジェンダーの交錯について考察する。

・主催 ―――――― 実践女子大学 生涯学習センター
・共催 ―――――― 実践英文学会
・後援 ―――――― 渋谷区教育委員会
・お問い合わせ先 ―――― 実践女子大学 生涯学習センター
Tel：042 - 589 - 1212
E-mail：kokai-koza@jissen.ac.jp
HP：http://www.syogai.jissen.ac.jp/